

質問に対する回答について

工事名）秋田自動車道 岩見川橋耐震補強工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	割掛対象表参考内訳書 P2【共通仮設費】-現場溶接部検査費の数量内訳（参考）欄に記載のある、「平均板厚（加重平均）-11mm」の意味をご教示ください。また検査数量は溶接延長の 1,354.4mと考えてよろしいでしょうかご教示ください。	現場溶接試験に使用する板厚を平均して、平均板厚（加重平均）が 11mm と示しています。 また検査数量については、発注図書を踏まえお考えください。
2	平尾鳥川橋の落橋防止構造 P1(50・54・56/112) 及び落橋防止構造 P2・P3(58・61・64/112) の図中の注記に「4. 主桁付プラケットはすべて橋梁と同等の塗装を施す。」との記載がありますが、設計報告書「秋田自動車道 平尾鳥川耐震補強設計 2-4 平尾鳥川数量計算書」においては「全て溶融亜鉛メッキ」となっています。上部工側は塗装が正しいと考えてよろしいでしょうか。その場合、上部工側の塗装仕様及び塗装面積、下部工側の溶融亜鉛メッキの数量をご教示ください。	設計図書に示すとおり、上部工側は塗装、下部工側は溶融亜鉛メッキです。数量は設計図を踏まえ算出願います。
3	奥羽本線橋 施工計画図<参考図>（その2）の図中において敷鉄板Aの月数が8ヶ月計上されていますが、数量総括表では7,200 m ² ・月とあり、m ² 数より換算すると月数が6.5ヶ月となります。どちらが正しいでしょうかご教示ください。	設置面積は施工計画図<参考図>（その2）記載の、1,080 m ² であるため、設置期間は約6.5ヶ月となります。契約数量は数量総括表、金抜設計書に記載のとおり7,020 m ² ・月となります。
4	奥羽本線橋の制震構造 水平力分担構造 OP1 及び OP2(17~20/61)において、非破壊検査試験費（施工前）【割掛】は通常RCレーダーによる鉄筋探査と思われますがPC桁の為、設計報告書「秋田自動車道 平尾鳥川耐震補強設計 3-4 奥羽本線橋数量計算書」においては「レントゲン探査」となっています。図面確認するとPC桁幅がW=458,470と厚い為、レントゲンでうまく撮影出来ないと予想されます。通常のRCレーダー探査で考えてよろしいでしょうかご教示ください。	閲覧資料である、貸与用電子媒体に関する質問は通常お受けできませんが、発注図書及び土木工事積算基準に記載のとおり、RCレーダー探査でお考えください。